

施設見学

生活福祉科介護福祉専攻

青木君代

例年学生が一回生時に施設見학을2日実施しています。この理由は一回生の後期より施設実習の450時間の開始に当り事前学習の機会として捉え2施設を予定しています。

施設は異なりますが施設の概要、構造、設備、利用者の生活実態等見学することで福祉施設を理解させたい為である。

本年は5月10日に老人保健施設さくら苑と10月11日にいこいの村の梅の木寮と栗の木寮を見学させて頂きました。本学の実習施設の中で老人保健施設は1つもなく、さくら苑は唯一の施設である為、見聞を広めて欲しいと思いました。学生の大半は施設見学を体験しておらず見聞するもの全てに興味深く緊張の中にも1つ1つの説明に対してメモをする等学びを深めていました。さくら苑は明るい雰囲気でする所にバリアフリーが考えられた設備や居室のスペースもゆっくりとし中でもりハビリ中の利用者の表情はいきいきとしておられその姿に学生は感動し、学生が利用者に積極的に声かけをすると笑顔で応じて下さったと誇らしげに答える学生のまなざしが印象的でした。又屋上に菜園があり高齢者の生きがいに繋がる野菜作りや花作りの活動の場があり、生活の質の向上に配慮を伺い知ることが出来ました。見学終了時事務長様よりお話があり、近年介護職者の就職状況の厳しさを話され特に学生の今の時期からしっかりと学んでおくようにとの言葉は学生及び引率した私共々身が引き締まる思いで聴きました。

又いこいの村の見学に於いては全国で5ヶ所しかない聴覚障害者施設であり、幸いにも本学は施設実習になっていますが、受け入れが2名と少なく、施設実習を3期に分けると6名しか行かれず是非学生全員に1回の見学ではありますが学びを深めて欲しいと考え、毎年実施しています。又いこいの村より、障害形態別で講師を依頼しており、見学は授業の一環としています。見学した学生の大半はレポートの中で、入所者の方々が自治による生活そのものをしっかりと根づかせ、各入所者の積極的な役割や、作業がなされており、又梅の木大学を作りいろんな教養面での学習会や、全国の仲間と交流の中での趣味活動の発表や又レクリエーションの1つとして海外旅行等巾広く活動されている事に驚きと感動を受けたと報告していました。又聴覚障害施設である事で伝える手段として、写真や文字による掲示は施設のあらゆる場所でなされており、入所者の方々へ確実に伝達や理解されるように工夫されていることも特徴の1つと思いました。例年、梅の木寮の隣にある授産施設栗の木寮で正月に向けてのしめ縄づくりを、入所

者さんと共に、学生が指導を受け実践するのですが、今回時間の関係で一入所者さんより説明を受けるのみで実践は出来ませんでした。立派に出来上がっているしめ縄飾りを見せて頂き、又山のように作業場一杯に置かれている藁を見て仕事がある、仕事出来るそしてその収益は自分達の生活費の一部として、役立てておられる事を知り社会的役割のある事の重要性を認識出来ました。

2日間の施設見学ではありましたが、学生達はそれぞれの施設そのものは勿論のこと、利用者の生活の一面を見聞出来、より今後の介護への考え方や自分自身が進むべき道への意志を強くしたのではないかと感じた2日間の施設見学でした。